

明治十七年五月七日 東京府知事芳川顯正

賞勳叙任

明治十七年一月十一日 舊開拓使原教頭米利堅合衆國 勳二等贈旭日章 勳勳六等賜旭日章 明治十七年四月廿二日 判事從五位 山吉 盛典 明治十七年五月六日 任會計檢査院書記官 非職內務權大書記官正六位 河野 通 任會計檢査院書記官從六位 河野 通 任會計檢査院書記官從六位 河野 通

時事新報

時券印稅規則ノ改正

我政府ハ本月一日第十一號ヲ以テ明治十七年七月第八十一號 布告時券印稅規則ヲ改正シ本年七月一日ヨリ新規則施行ノ 旨ヲ布告シタリ我輩先ツ新舊兩規則ヲ比較シテ今改正ノ 主意ヲ臆測スルニ其目的減稅ニ在ルカ將テ増稅ニ在ルカ未 知速カニ斷言スベカラズ何トナレハ時券印稅規則範圍內ノ 諸證書帳簿類ノ新舊稅率ヲ比較スルニ或ハ舊重ク新 輕キアリ或ハ新重ク舊輕キアリ新舊輕重相錯雜 シテ斷然相違ヲ見ルコト難クレバナリ例ヘバ「當坐預リ 金引出小切手」ノ舊法ニ於テ一錢ノ印稅ナリシモノガ新法 ニ於テ五厘ニ減シタルハ減稅ノ傾キアルガ如ク然レバ「雇 人請合狀」ノ舊法ニ於テ三厘五厘乃至七厘ノ界紙ヲ用ヒテ 濟ミタルモノガ新法ニ於テ一錢ノ印紙ヲ貼用スルコト改マ リタルガ如キ又「金高記帳ナキ約定書」ノ舊法ニ於テ界紙 ヲ用ヒテ濟ミタルモノガ新法ニ於テ一錢ノ印紙ヲ貼用スル コト改マリタルガ如キ又「營業ニ關スル請取書」ノ舊法ニ於 テ金高十圓以上ニ限リテ一錢ノ印紙ヲ貼用スルコト要シ十 圓未満ノモノハ印紙界紙ヲ用ルルコト及バズ全ク無稅ナリシモノガ新法ニ於テ金高五圓以上ハ一錢ノ印紙貼用ヲ要ス ルコトナリシモノハ或ハ増稅ノ傾キアルガ如ク然リ而シ テ又「爲換手形」ノ舊法ニ於テ金高五十圓未満 ハ無稅ナリシモノガ新法ニ於テ五十圓未満印稅一錢ト改マ リタルハ増稅ノ傾キアルガ如ク然レバ「於テ金高五十圓 以上毎五十圓ニ一錢」ノ印稅增加シテ際限ナカリシモノガ新法ニ於テ二千圓ヲ超過スル金高ナレバ何程ノ高ニテモ 五十圓ノ印稅ト改メタルハ減稅ノ傾キアルガ如ク又「金高 借用書」ノ舊法ニ於テ「地所家屋買賣書」ノ類ノ舊法ニ於テ金高十圓未 滿ノモノハ界紙ヲ用ヒテ濟ミタルモノガ新法ニ於テ金高一圓 以上ハ印稅一錢ト改マリタルハ増稅ノ傾キアルガ如ク然レバ 舊法ニ於テ十圓以上毎十圓ニ一錢、印稅增加シテ際限 ナカリシモノガ新法ニ於テ四十圓以上ハ何程ノ金高ニテモ 印稅一圓ト限リタルハ減稅ノ傾キアルガ如ク又「諸物品切 手」ノ舊法ニ於テ酒切手ハ一升未満食物切手又ハ米油醬油 類ノ切手ハ金高二十五圓未満ノモノニ限リ無稅ナリシモノガ 新法ニ於テ一升未満二十五圓未満ノモノト雖モ總テ印紙一錢 ト改マリタルハ増稅ノ傾キアルガ如ク然レバ舊法ニ於テ切

手面ノ升目金高ノ増加スルニ從テ次第ニ印稅增加シ際限 ナカリシモノガ新法ニ於テ金高ノ多少ニ拘ハラズ總テ一錢 ノ印稅ト改メタルハ減稅ノ傾キアルガ如ク然レバ「類枚率」連ア ラズ依テ新舊兩法詳細ノ比較ノ如キハ讀者自カラ法文ヲ熟 讀シテ其相違スル所ヲ知ルコト讓リテ我輩故ラニ茲ニ掲記ス ルノ勞ヲ取ラザルベシ 前段ニ概記スル如ク今回ノ時券印稅規則改正ハ各項ニ就キ 一々其變化ヲ檢スレバ或ハ増稅モアリ或ハ減稅モアリ其概 々テ其増減ヲ明言スルコト難クレバ規則全面ニ就テ觀察シ 下ストハ金高ノ大ナル證書類ニハ著シク印稅ノ輕減ヲ見ル 同時ニ其小ナルモノニハ又著シク増加ヲ見ルガ如ク「金 高記帳ナキ約定書」ノ界紙ヲ改メテ一錢ノ印稅ト爲シ「金 高借用書」ノ「地所家屋買賣書」ノ類ノ金高十圓未満ノ界紙 ヲ用ヒタルヲ改メテ金高一圓以上二十圓未満ナレバ一錢ノ 印稅ト爲シ「營業ニ關スル請取書」ノ金高十圓未満ノモノハ 無稅ナリシヲ改メテ金高五圓以上ナレバ一錢ノ印稅ト爲シ タルガ如キハ其著シキモノナルベシ而シテ金高ノ少ナキ買 買約定等ハ世間ニ其場合甚多ク金高ノ甚大ナルモノニ 比シテ其數幾倍ナルベキヤ論テ俟テザルガ故ニ大體ノ收入 上ヨリ論スルニ今回ノ改正或ハ其得ル所ヲ以テ其失フ所 價ヲ餘リアル計算モアラフコト推察セラル、ナリ故ニ人 々ノ見込ニ由リテ今回ノ改正ヲ見テ減稅ノ目的ニ出ルナ リト言フ者モアラフコト強ヒテ我輩ノ說ヲ問フ者アラ バ我輩ハ此改正ノ爲メニ歲計收入ノ減少アラフコト言ハント 事口増加アラフコト言ハント欲スルナリ 我輩ハ又今回ノ改正規則ヲ見テ現行ノ規則ニ比シテ頗ル 簡單明白ニシテ紛雜難解ナラザルヲ喜ブナリ殊ニ時券印稅 ノ如キ人民日常ノ事務ニ近密ノ關係アルモノハ別シテ簡明 ニシテ迷惑ノ憂ナキヲ要スレバナリ然レバ我輩ハ今回ノ改 正ニ際シテ一ノ願望アリ夫ハ他ニアラフズ郵便切手ヲ以テ時 券印紙ニ代用シ苦シカラズト爲ルコト是ナリ郵便切手ハ一 必需ノ日用品ニシテ農工商士其產業ノ何タルヲ問ハズ常ニ コレヲ坐石ニ用意シ置カザル者ナリ然レバ時券印紙ニ至リ たらハ其用稍遠キナレバ毎家必ズシモ常ニ用意シ置クモノ ニアラズ然レバ今回ノ改正ニ由リテ來ル七月一日以後ハ金 高五圓ノ請取書ニモ一錢ノ印紙ヲ要シ金高一圓ノ請取書 ニモ一錢ノ印紙ヲ要スル様ノコトナレバ何人ヲ論ゼズ日常時券 印紙入用ノ場合ハ必ズ大ニ増加スベキヲ疑フ容レズ此時ニ 當リ一々時券印紙ノ用意ナクモ坐石ニ有合ハセノ郵便切 手ヲ代用シテ事足ルハ其便利實ニ言フベカラザルモノア ラン郵便切手ナリ時券印紙ナリ其價實元ハ同一ノ政府ナ ルガ故ニ彼レニ減スル所ヲ以テ此ニ増シ實際ノ收入上ニ於 テナキニ變化ナキ以上ハ切手ノ流行スルモノ印紙ノ流行スルモ 此間ニ喜憂ヲ挾ムノ要ナカレバ信スルナリ郵便切手代 用ノ簡便法ハ英國政府既ニコレヲ實施シテ其便ヲ知レリ我 々日本國民モ速ニコレニ倣フコト我輩ノ切望スル所ナリ

五月四日 氏は英國 並ひよゴ を罷責す ○獨英 伴ひ日耳 上ノ配 以て獨帝 出發 對面 填前 せられた の本紙上 三十一年 五年三月 となられ 六月先帝 遂に崩 隨分御高 ○大山參 著したる ○顯官轉 仰付ら 特命全 千圓) 任し文 司法大 在勳仰 會計檢 參事院 ○三島勳 ○官廳登 文部大 上京せし 神戶始 〇會計 下賜さる へ出張 同内務權 歩兵大尉 〇内務 試練所長